

若手職員ワークショップからの提案



若手職員ワークショップ概要

○目的

未来の区政を担う若手職員の柔軟な発想と職域を超えた視点をもって、区の将来像や分野別の課題や方向性について意見を聴取するため

○参加者 20代、30代の係長級以下若手職員 26名

○討議方法・内容

5班（各班5～6名）に分け、下記内容について討議を実施した。



日時	プログラム
第1回目 令和6年7月31日（水）	<ul style="list-style-type: none">・本ワークショップの意義、ゴールの共有・座学：基本構想について・ワークショップ（自由討議）<ul style="list-style-type: none">テーマ1：区の好きなところ・改善すべきところテーマ2：10年後の姿、実現に向けた取り組み
第2回目 令和6年9月12日（木）	<ul style="list-style-type: none">・座学：論点整理レポート、各種データについて・ワークショップ：<ul style="list-style-type: none">提言するテーマ決め、根拠（データ）の掌握、強み・弱みの分析将来像、実現されるべき姿、解決すべき課題の検討
第3回目 令和6年10月17日（水）	<ul style="list-style-type: none">・まとめ
成果発表会 令和6年11月13日（水）	<ul style="list-style-type: none">・区長への成果発表

若手職員ワークショップ提案内容

◇ 2度もおいしい！？すみだの観光 デジタル化×まちづくりで観光資源の魅力を 顕在化する 【観光】



10年後のめざす姿	実現されるべきこと
観光資源に <u>デジタル</u> と <u>リアル</u> の両面から気軽にアクセスできるハイブリッドな姿	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源のデジタル化 ・観光資源を活かしたまちづくり ・観光資源へのアクセスの担保

◇ ～映えよ！進化せよ！伝統文化～（10年後も栄え続けるすみだの宝） 伝統文化の継続とイノベーション 【文化】



10年後のめざす姿	実現されるべきこと
全国トップクラスの魅力を持つ伝統工芸や花火、北斎といった、様々な伝統文化が、区内外のネットワークによってバージョンアップされながら、時代に合わせた形で残り、SNSや広報活動を通して、幅広い年代の区民や観光客に浸透しているまち	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化 × ●●● で相乗効果が生まれ続けている ・魅力的なコンテンツが発掘され、周知・PRが充実している ・人材確保・文化継承の基盤が整備されている

若手職員ワークショップ提案内容



◇ 『OasiSumida』

～ 「だれもが」 「つながり」 「かかわり」、住み続けたい・働き続けたいまち～
【福祉・こども】

10年後のめざす姿	実現されるべきこと
<p>こどもは安全に遊べる場所が家や学校の身近にあり、安全に移動することができます。家、学校、社会に対しての意見を言う場があり、こども自身が実現に向けて参画できる仕組みができています。</p> <p>子育て中の親が育児について気軽に相談できる場所があり、ベビーカーを押しながらも容易にまちなかを移動できます。加えて、自宅での相談訪問も充実しています。</p> <p>高齢者はいろんな世代と会話し交流できる場所が身近にあり、安全に移動することができます。定年後も社会の一員として、生き生きと活動しています。</p> <p>様々な立場の人々にサービスを提供する支援者は、よりよく整備された従事環境で快適にサービスを提供し、支援者同士で意見交換ができる輪ができています。</p>	<p>○全ての人の受け皿となる居場所をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰でもやりたいことができ、活動・活躍できる場を創出する。 ・家や学校、職場等に代わる居心地の良い場所を創出する。 ・いつでも相談できたり、助けを求められる場を創出する。 <p>○だれにも障壁とならないアクセス方法をととのえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこへでも行きたいときに行ける環境を整備する。 ・いつでも・どこでも目的を果たせる環境を整備する。 ・だれでも情報を見つけやすい環境を整備する。 <p>○支援が必要な人のために支援者をささえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者の数を確保するため、従事環境を整備する。 ・支援が必要な人への理解を深め、支援の質を向上させるため、支援者のつながりを創出する。

若手職員ワークショップ提案内容



◇デジタルが暮らしの味方に ハンディキャップの有無に関わらず誰もが安全・安心に便利に暮らせるまち 【福祉×デジタル】

10年後のめざす姿	実現されるべきこと
デジタルが暮らしの味方に ハンディキャップの有無に関わらず、誰もが安全・安心に便利に暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル技術で場所を選ばずサービスが受けられる ・ デジタル技術でつながりを構築 ・ デジタル技術で災害時も迅速＆安全に対応できる

◇縦横無尽につながる「すみだ」をつくる ～「すみだ」ならではの日常が支える防災まちづくり～ 【まちづくり・防災】

10年後のめざす姿	実現されるべきこと
<p>区民の生活を支えるインフラが整備され、人々の移動が安全・快適に行われています。</p> <p>また、区民同士だけでなく、ワーカーや学生がともに協力し合いながら、地域ごとに特色のある活動が展開され、「すみだ」らしい日常が散見されます。</p> <p>そして、災害時に人々の生命や財産を守る環境が整い、新たに構築されたコミュニティが無数の災害対応策を生み、災害に対する不安がないまちになっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産学官民の連携した地域コミュニティの醸成・強化を図る ・ どんな人も移動しやすい空間の整備を進める ・ 災害から身を守る様々なしくみをつくる

